GAKUSHUIN 150th
SINCE 1877

アートで読みとく「大切なもの って何だろう？」

アートへの扉を開き、観察力と想像力をはたらかせて、目には見えない「大切なもの」を見つける初めの一歩！

©国立新美術館

日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト水戸」(2005-) 写真提供：水戸芸術館現代美術センター

学習院創立150周年 第4回記念事業「講演会」

2025 10.11［SAT］ 14:00-16:00

学校法人学習院目白キャンパス
創立百周年記念会館正堂

聴講無料 ｜ 事前のお申し込みが必要です

【応募期間】お申し込みは右記、二次元コードから

2025.9.10［WED］10:00 ~ 10.2［THU］15:00

※申込みが定員数を超えた場合、抽選によりサテライト教室での聴講となります

＼日比野克彦さんワークショップ開催／

Photo Hibiki Miyazawa (COG WORKS)

逢坂（おおさか） 惠理子（えりこ）氏

国立新美術館長 ／ 独立行政法人 国立美術館理事長

東京都生まれ。1973年学習院大学文学部哲学科卒業（専攻芸術学）国際交流基金、ICA名古屋を経て、1994年より水戸芸術館現代美術センター主任学芸員、1997年より2006年まで同センター芸術監督。2007年より2009年1月まで森美術館アーティスティック・ディレクター。2009年4月より2020年3月まで横浜美術館館長。2019年10月より国立新美術館長に就任。2021年7月より独立行政法人国立美術館理事長を兼任。また、1999年第3回アジア・パシフィック・トリエンナーレで日本部門コ・キュレーター、2001年第49回ヴェニス・ビエンナーレで日本館コミッショナー、2011年第4回から2020年第7回の横浜トリエンナーレにおいて、総合ディレクター、横浜トリエンナーレ組織委員会委員長、コ・ディレクター、横浜トリエンナーレ組織委員会副委員長をつとめるなど、多くの現代美術国際展を手掛ける。第69回（2020年度）横浜文化賞を受賞。

日比野（ひびの） 克彦（かつひこ）氏

アーティスト ／ 国立大学法人東京藝術大学長

1958年岐阜県生まれ。東京藝術大学に在学していた80年代前半より作家活動を開始し、社会メディアとアート活動を融合する表現領域の拡大に大きな注目が集まる。その後はシドニー・ビエンナーレ、ヴェネチア・ビエンナーレにも参加するなど、国内外で個展・グループ展、領域を横断する多彩な活動を展開。また地域の場の特性を生かしたワークショップ、アートプロジェクトを継続的に発信。現在、岐阜県美術館、熊本市現代美術館にて館長、母校である東京藝術大学にて1995年から教育研究活動、2022年から学長を務め、芸術未来研究場を立ち上げ、現代に於けるアートの更なる可能性を追求し、企業、自治体との連携なども積極的に行い、「アートは生きる力」を研究、実践し続けている。

【後援】豊島区

アートで読みとく「大切なものって何だろう？」

アートへの扉を開き、観察力と想像力をはたらかせて、目には見えない「大切なもの」を見つける初めの一歩！

Message From Osaka Eriko

数字で何事も判断する時代は、即結果や実績をだすことが大切と思われています。そうした時代だからこそ、時間をかけて何かを成し遂げること、共に助け合うこと、丁寧に向き合うこと、自分以外の人々に思いやりをもつことの大切さなどは、目に見えにくく評価されにくいのです。
ひとつの正解があるわけではないアート作品は、世界や人間を複数の見方でとらえることを促してくれます。
アーティストの日比野さんのワークショップも交え、改めて皆さんと共に「大切なもの」を考えます。

戦争や対立、気候変動、自然災害など、深刻な課題に直面している世界に生きている私たちは、SNSで発信される溢れる情報の中で、「何が事実なのか」「何が大切なことなのか」を見極めることが難しい日常を過ごしています。
私たちにとって「大切なものとは何でしょうか？」それは、すぐには目に見えないものかもしれません。アート作品やアーティストのアイデアに触れることによって、今までとは別の見方や、考え方に気づくかもしれません。
一緒にアートへの扉を開けてみませんか？

「大巻伸嗣 Interface of Being 真空のゆらぎ」国立新美術館 2023 年 展示風景 撮影：木奥惠三